

11月29日(木)

創立百十周年記念祭執行

真柱様御夫妻の御臨席を賜り 雨天下、2,500余名が集う



かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311

笠岡大教会 創立110周年

三年千日スローガン

論達を實踐し、をやの理を戴こう

本年の實踐項目

- 一、おさづけの取り次ぎ
- 一、陽氣ぐらし講座と百万軒にをいがけ
- 一、一万人のおぢばがえり

去る十一月二十九日、待ちに待った創立百十周年記念祭が執行されました。

思い返せば、教祖百十年祭の年、続く立教百六十年の節目の年をつとめたえ、次の塚への歩み出しを始めた平成十年・教祖御誕生二百年の年、存命の教祖にお喜び頂こうと、百万軒にをいがけが打ち出されました。

この年、図らずも真柱継承奉告祭が執り行なわれ、新しい真柱様より『論達第一号』を御発布頂き、"実践"のお言葉を追いつきに、いよいよ創立百十周年記念祭に向けての三年千日活動が打ち出されました。

「論達を實踐し、をやの理を戴こう」をスローガンとして歩んだ三年千日。一年目の年は、前年果たせなかつた「百万軒にをいがけ」完遂を期して、「ためらいを捨て勇んで百万軒」を實踐項目と定め、見事、成し遂げ

ました。二年目の昨年は、さらに「つとめに専心」・「百万軒にをいがけ」・「全教会で陽氣ぐらし講座開催」を、

そして三年目の本年は、「おさづけの取り次ぎ」・「陽氣ぐらし講座と百万軒にをいがけ」・「一万人のおぢばがえり」を實踐項目として、それぞれに、持ち場立場の上から、弛まず努め励んだ三年千日だったことでしょうか。

お入り込み下さった真柱様のおことばを拝聴して、また、大教会長様による祭文奏上・お礼の言上・犒いのご挨拶をお聞きして、何を感じたかが、すなわち、それぞれの三年千日だったことでしょう。

記念祭の詳細については、追って発刊される『特別号』を御覧頂くとして、先ずは、三年千日の実践にお犒いを申し上げ、今後のご活躍をお祈り申し上げます。

Fallen's a Miss's Essay
心の通ひ路

落ち葉に学ぶ

久松分教会長 中村 剛

昨年十一月の月次祭、おつとめも終り、直会が盛り上がっている頃、心ある人々が撒餞と後片付けのひのきしんにつとめて下さっている。私はその様子を見て、教会周辺の清掃につとめる事にして、箒とチリ取りを持って、玄関前・横と済ませ、神殿裏側に回る。

片側に五本程ある街路樹が、日増しに落葉の量を増している。その落葉を無心に掃き集めていると、フト、ある事が思い浮んだ。それは、ある新聞の読者広場に投稿された文である。

ある外国の中年女性が日本に観光に来られ、友人の案内で各地を観光していた時、丁度十一月の中頃で、街路樹を七く八人の職人が手際良く枝を落としていている。見ている間に、葉を一枚も残す事なく丸坊主にされていた。その様子を見ていた外国女性が不思議に思い、何故、枝を切り落してしまうのかと、友人に尋ねた。友人は落葉になって困るから枝を切っているのよと答えると、理解出来ないのか、何故落葉になったら困るのかと聞き返す。毎日落葉を掃除する

のが大変なので苦情が多く、業者に頼んで枝落をしているのだと答えると、彼女は不満の声を大きくして、あの樹はどんなにか人間のために役立っているのに、落葉になると掃除をするのが大変だと邪魔者扱いにする。日本人は身勝手だと、怒っていた事を、代筆で投稿された内容である。

私はその事を思い出しながら、晩秋の恒例行事ぐらいに思っていたが、外国の人が見ると、恩知らずの身勝手な国民に思えるらしい。色々と思いつらせっていると、この事は、先祖や親の姿に似ていると思つた。

街路樹は、春ともなれば、若葉青葉で春のよろこびを教えてくれる。夏には木陰をつくり景観を良くして目を楽しませ、心の安らぎを与え、空気を浄化して酸素を出してくれる等、計り知れぬ程人間の役に立っている。なのに、落葉になると、そのご恩・働きを忘れて邪魔者扱いに



する。

人間の親も、子育てのためにはそれこそ昼夜の厭いなく親心の限りを尽して養育に励む。やがて段々と成人して一人前になると、結婚、家庭を持ち、子育てに励み、家族を守るために一生懸命に励む。その頃になると、親は定年を迎え、段々と役に立たなくなり、人の手を借り、介護が必要となる。こうなると感謝の心・ご恩の心も薄れ、忘れて邪魔者になる。

親神様の御守護、教祖の親心、親々のご恩を忘れる事は、不幸の元である。成人不足は実に悲しく恐い。この様な事を思い巡らし大切な事を気付かせて頂くと、心がだんだん温くなる。ひのきしんは本当に大切でありがたい。

来年は、全教一斉ひのきしんデーが提唱七十周年を迎える。一人でも多くの人を誘い、家族揃って参加しよう!

一生懸命

“一生懸命” 私はこの言葉が大好きである。何事も一生懸命にやれば、神様が働いて下さる。私はこの事について忘れられない思い出がある。それは……今は布教所長となつて下さったある婦人用木の方の話である。その方は、全く見ず知らずの方と一寸した事から知り合い、悩みを打ちあけられた。

その年の夏の終りに近づいた頃、夏休みの最

後にと海へ出かけた娘さんが、帰宅して夕食の支度をしていたお母さんに、突然とんきょうな声で「お母さん大変や!! テレビで私の事を放送している。こわい!!」と叫んだ。びっくりした両親は、なだめて心静めようとしたが効果なく、近くの病院へつれて行った。以来娘の状態がおかしいので、つらい毎日を送っています、との事。

婦人用木は、「絶対良くなる所へ連れて行ってあげましょう。」と教会へその両親を連れて来られた。お盆なので、海へ流された霊がとりついたのでしょうか? どうしてこんな事になったのでしょうか? 涙ながらに話される御両親の姿に、私は本当に心の底から可哀想、何でも助かってもらわねばと、御両親に別席を運んで頂く事にした。翌

日、早速にお地場へ行かれ、婦人用木は毎日病人にお授けを取りつぐため、バスで彼女の家に向いた。別席も運ばれ、毎日のお授けも、来て頂いたら気の毒と、娘を連れて両親がその用木の家に向いて行った。藁をもうがる思いで必死だった。



しかし中々御守護の理が見えない。ある時、その用木の方が泣きく、教会へ電話をしてこられた。「私にはこのお助けは無理です。今日から教会の方でお願いします。病人の父親が、何時になったら御利益があるのか。あんたの言う通りにしたのに、すぐにも助かると言いながら、うそばかり」と、カンカンになってしまいました。恐くて恐くて。」と電話をかけてこられました。

私は、とつさにどうしたら良いのか絶句しました。しかし必ず神様が働いて下さる所までいかねば...そして「大丈夫必ず助けて下さる。今日から深夜(十二時)の十二下りをつとめよう。つとめた理をもつてお授けを取りつがせて頂いたら絶対大丈夫だから、私も応援するから途中でなげたらあかんよ。」「ハイ、分かりました。がんばります。」

その夜から、隣に寝ている子供を起こさない様、静かに十二下りをつとめた。十日以上過ぎた頃、或る夜、十二下りが終って、着のみ着のままに床に寝たその方が、一時間もしない間に「よろづよのせかい」と、又十二下りを始めました。隣室で試験勉強をしていた娘さんがびっくりして「お母さん、十二下りすんだのよ。何べんするの」との大きな声で我に返ったんです。と、電話をしてこられました。

私は涙が出ました。その婦人用木の方の頭の中は、お助けで一杯です。遂に神様が働いて下

さったのでしよう。

病人はその日を境に、薄紙をはぐ如く、少しずつ生気に帰ってきました。両親は、神様のお働きを心から感じ、以来今日迄一筋心でつとめて下さっています。現在、その娘さんは再発が二度程ありましたが、三人の子供の母親として元気ががんばっております。

修養科修了生の声

修養科を終えて……

福東分教会 藤井 妙子

私が修養科に行くきっかけは、家が天理教の教会だからというただそれだけ、義務みたいなもので、あと少しはそう思う自分を変えたいという願望からでした。

入ったばかりは分からないことばかりで、生活に慣れるのが必死でした。毎日が楽しくなく心身が疲れ、こんなことでは3ヶ月もつかないとさえ思いました。

そんな気持ちで過ごしながら学校が始まり、ある先生から「あたりまえ」という詩を聞かせてもらった時、私の心に変化がありました。

立教165年 笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	全体行事	ひのきしん	布教部	海外部	婦人会
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	11~20 直属ひのきしん特別隊 25~27 春季大祭話所受入			
2	2~15 部内巡教	16~28 本部食堂(直1ブロック)	28・3/1 修養科修了講習会		21~22 委員研修会
3	2~15 部内巡教		25・26 教会長講習会		
4		16~20 教祖ご誕生祭話所受入	28・29 道の後継者練成会		19 婦人会本部総会
5	4~18 直轄教会定期巡教	1~15 本部食堂(直2ブロック)	1~10 ひのきしん推進旬間 12 全教一斉ひのきしんデー 28・29 修養科修了講習会		22~23 全委員部長講習会
6					
7		16~31 本部食堂(福山ブロック)			
8	26~4 こどもおぢばがえり	25~4 こどもおぢばがえり 話所受入	28・29 修養科修了講習会	5~7 英語講習会	
9			1~30 布教推進強調月間 22・23 布教所長夫妻成人研修会 28~30 全教一斉にをいがけデー		こかん様に続く会
10	4~18 直轄教会秋季大祭参拝	1ヶ月 本部保安(2名) 1~15 本部食堂(直属ブロック) 24~26 秋季大祭話所受入			
11			28・29 修養科修了講習会		23・24 委員部長後継者講習会
12	22 年末大掃除	1~20 直属ひのきしん特別隊 21 献血ひのきしん 27 話所餅搗			◎支部例会(毎月5日午前10時) ◎直轄委員部長連絡会(毎月次祭後)
備考	◎部長会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後2:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後2:00	註:ブロックの区分けは 直1:鶴山~明石市 直2:久松・東城~錦備 上府:上下、府中市	◎月例勉強会 ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よびばく月報		◎女子青年例会日(毎月第4日曜日) ◎ひまわり会(毎月3日)

部会 月	青年会	少年会	学生会 学生担当委員会	輸送部	雅楽部
1				26 春季大祭	
2					
3			28 春の学生おぢばがえり (直属アワー)		
4		30~1 鼓笛バンド講習会 2 おつとめまなひ総会	28 新入生歓迎会(おぢば)	18 教祖ご誕生祭	
5		30~31 キャンプ研修会	21 学生層育成講習会		
6	1ヶ月ひのきしん隊	21 縦の伝道講習会			
7					
8		22~24 野外錬成会(キャンプ)		26~4 こどもおぢばがえり	
9	1~8 布教推進週間				
10	27 本部青年会総会		27 学生会親睦会(おぢば)	26 秋季大祭	
11			23 学生の集い		
12					
備考	◎大教会ひのきしん 毎月19日 午前9:00~				◎練習:毎月次祭前日 夕勤後 ◎雅楽練習:毎月次祭日 夕刻

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎しんで申し上げます

親神様の果てしない親心と御守護によりまして日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております。又旬刻限の到来と共に教祖を社としてこの世の表にお現れになり以来陽気ぐらし実現の為の成人へとお導き下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます。私共はお教え頂いた最後の教えを心に治めひながたを辿るべく日々は朝夕にお礼を申し上げつつたすけ一条の上に勤め励ませて頂いております。特にこの月二十九日は創立百十周年記念祭をつとめる芽出度い月に当たりますのでその喜び心も一入におつとめ奉仕者一同心を一つに睦び合わせて陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて十一月の月次祭を執り行わせて頂きます

御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌に唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて創立百十周年記念祭まであと僅かとなりました。記念祭までに実践項目の完遂を合言葉に今日までつとめてまいりましたところ一ツおさづけの取次については回数はもとより例年より多くの人が取り次がさせて頂く事が出来ました。一ツ陽気ぐらし講座開催についてはほとんどの教会が実施し百万軒にをいがけについては百万軒を越える事が出来ました。一ツ一万人のおどば帰りについては実数には至りませんでした。延べ人数で一人人を超える事が出来ました。改めて御守護の程を御礼申し上げます。この上はこの実績を基に経験を生かすべくこれからたすけ一条の上により勇んで勤めさせて頂く覚悟でございます

何卒親神様にはお与え頂く節目に際しおかけ下さる親の声に素直に心を一つに合わせ添いきる皆の真実の心をお受け取り下さいます。万たすけの上の自由の御守護を賜わると共に三年千日の歩みをお互いに称え合い喜び合い新たな歩み出しを誓い合う陽気づくめの記念祭を迎えさせて頂けますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

ふたこと
みこと

去る11月29日、真柱様御夫妻の御臨席を賜り、笠岡創立百十周年記念祭が執り行われ、平日にもかかわらず二千五百人を超える参拝者の方々に、神殿はもとより、廊下、階段、特設会場まで人の波が押し寄せ、喜びの中、滞りなく、座りづとめ、手をどりが和かにつとめられた。

思い返せば、三年前、一月の終り頃、一本のかいづかの木を剪定している所へ大教会長様が通られ、「剪定はなあ、云々」と、一声かけて下さり、大教会長様は、その足で、にをいがけに歩いて出かけられた。昼を過ぎた頃から吹雪になり、夕暮れが近づいて来たのを機に、切り上げようとしていた所へ、お帰りになられた。そついつ日が度々続き、三年千日のお打出しが発表され、百万軒にをいがけがスタートした。

夫婦で、乳母車を押しながら、戸別訪問させてもらったり、剪定の方も有志が集まり、六月を待たずに仕上がった。その後、御命を頂き境内掛へ二年間勤めさせて頂いた。

当日、お昼を過ぎ、23日ぶりの雨になった。

数ヶ月を擁して、準備した会場を、日が落ち、雨が容赦なく降り注ぐ中を、誠実を尽くして、撤収に当たられた。ものの見事に片付け切られた中に、新たな息吹と、かさおかの変わらぬ心をかいま見た気がします。